

人道の港
敦賀ムゼウム

るぼう 流氓ユダヤと 神戸の 歴史



日本に滞在したユダヤ難民

昭和10年 神戸の中心部の景観 省線三宮駅高架上より臨港道路を望む (神戸市文書館提供)

2026年 3月14日(土)～6月14日(日)

◎開館時間 午前9時～午後5時(入館は閉館30分前まで) ◎休館日 水曜日(祝日の場合は翌日)

◎主催:人道の港 敦賀ムゼウム ◎協力:神戸市文書館 ◎後援:イスラエル大使館

流氓ユダヤと神戸の歴史

1940年から1941年にかけて、東ヨーロッパにいたユダヤ人たちは、ナチス・ドイツやソ連による迫害を逃れるため当時中立国であったリトアニアに逃れ、杉原千畝領事代理が発給した「命のビザ」を得てシベリア鉄道に乗って大陸を横断し、さらに船で日本海を渡って敦賀港に上陸しました。当時の敦賀のまちの人々に迎え入れられた彼らは、その後、第三国に向かうまでの間、日本で唯一のユダヤ人コミュニティがあった神戸に滞在しました。神戸のまちは、1868年の神戸（兵庫）港開港以後、居留地や雑居地が設置、整備され、多くの外国人を受け入れる国際都市として発展していました。ユダヤ難民たちが携えていたビ

ザは「日本通過ビザ」であったため、本来日本での長期滞在は認められていませんでしたが、神戸ユダヤ協会の保護や歴史学者 小辻節三氏らの奔走によって、その多くが一定期間神戸の地で過ごし、市井の人々のあたたかい支援を受けながら生活しました。

当時大阪を拠点に活動していたアマチュア写真家の団体『丹平写真倶楽部』のメンバーは、そんな神戸のユダヤ難民のありのままの様子を写真に収めました。この写真群は『流氓ユダヤ』と呼ばれ、神戸の歴史を知る貴重な史料であるとともに、写真作品としても高く評価されています。



安井仲治《流氓ユダヤ(母)》※
1941年 兵庫県立美術館蔵



田淵銀芳《流氓ユダヤ(男)》※
1941(2012)年 兵庫県立美術館蔵



椎原 治《流氓ユダヤ(ヘブライの書)》※
1941年 兵庫県立美術館蔵

※本展では写真作品を複製したパネルでご紹介します(元の写真作品は出品しません)



そごう百貨店
昭和10年 神戸市文書館蔵



省線高架付近より東亜道路北方を望む
昭和10年 神戸市文書館蔵



元町通6丁目
昭和12年 神戸市文書館蔵



企画展関連講演会

流氓ユダヤの神戸ーユダヤ難民と丹平写真倶楽部

講師：加藤哲平氏（九州大学助教）

2026年3月15日(日) 15:00～16:30(14:40開場)

【要事前申込・先着50名】

加藤哲平氏 略歴 1984年生まれ。同志社大学より博士(神学)、米国ヒブル・ユニオン・カレッジよりM.Phil.(ユダヤ学)取得。現在 九州大学大学院言語文化研究院助教。専攻 聖書学、ユダヤ学。著書『ヒエロニムスの聖書翻訳』(教文館 2018年 第3回日本基督教学会賞受賞)。訳書『死海文書Ⅲ・聖書釈義』(共訳、ぶねうま舎、2021年)。古代ユダヤ・キリスト教文学に関する論文多数。日本ユダヤ教史に関する業績として、「流氓ユダヤの神戸：ユダヤ難民と丹平写真倶楽部」『関西ソークル』第3号(2016年)、「ラビ・オカモト日本人最初のラビの生涯」『ユダヤ・イスラエル研究』第39号(2025年)



←事前に
お申し込みを
願います。

※警備の都合上、運転免許証やマイナンバーカード等写真付き身分証をご提示いただけます。また、手荷物検査等を実施する場合がございますので協力をお願いいたします。

